

第5学年2組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 いろいろな音色を感じ取ろう（8時間）  
教材名 表現（器楽）「リボンのおどり」  
鑑賞 「祝典序曲」「アフリカンシンフォニー」  
音楽づくり 「打楽器でリズムアンサンブル」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現（2）器楽	ア 器楽表現についての意識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。 イ(ア)曲想と音楽の構造との関わり (イ)多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり ウ(ア)範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能 (イ)音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 (ウ)各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
(3) 音楽づくり	ア(イ)音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて工夫し、思いや意図をもつこと。 イ(イ)音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴 ウ(イ)音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
B鑑賞	ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。 イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
[共通事項]	ア 音色、リズム、速度、旋律、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素： 音色、リズム、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化 イ 音符、休符、記号や用語：アクセント、へ音記号

(1) 題材観

本題材は、前題材の「音の重なりを感じ取ろう」の学習経験を踏まえながら、楽器の音が重なり合う響きのよさや面白さについて感じとったり、それらを生かして表現を工夫したりすることをねらいとしている。楽器の音の組み合わせ方や重ね方を工夫した演奏の仕方や、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いてまとまりのある音楽をつくる活動を通して、思いや意図をもたせていきたい。

(2) 指導観

＜教材について＞

器楽で扱う「リボンのおどり」では、楽器の音色の音が重なり合う響きを楽しみながら演奏することを目標としている。旋律が何度も反復するため、パートの重ね方や強弱の工夫に適している教材である。また、シンコーションのリズムのフレーズを自分たちで組み合わせる面白さを味わいやすい教材になっており、この教材で思いや意図をもって楽器を組み合わせる工夫をして演奏し充実感を味わうことで、本時で行うリズムアンサンブルでも思いや意図をもつことにつながると考えられる。

鑑賞で扱う「祝典序曲」は、金管楽器のファンファーレに始まり、二つの旋律が楽器を代えながら交代して演奏される楽曲である。オーケストラの楽器の音色や旋律の反復と変化、旋律と伴奏の音の重なりを聴き取りやすい曲なので、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美し

さを感じ取りながら曲全体を味わって聴けるように指導していきたい。

本時で扱う「打楽器でリズムアンサンブル」は、本題材の器楽と鑑賞で学んだ音楽の見方・考え方を働かせて音楽づくりを行えるようにする。「反復」「呼びかけとこたえ」「変化」に加えて「音楽の縦と横との関係」を生かして全体の構成を工夫することができるため、どんなアンサンブルにしたいという「思い」とどのような工夫をしたいという「意図」の両方をもって活動できるように指導していきたい。

#### <研究の視点との関わり>

##### 【視点1】

###### ②既習を生かして学びを深める授業づくり

児童は4年生の時に「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」の学習で、木管楽器の音色に注目してきた。本題材ではオーケストラの音色に着目している。アンサンブルの構成については、「言葉でリズムアンサンブル」の学習で、反復やつなぐ、重ねるといった変化を使ったリズムアンサンブルを経験してきている。

また、音楽づくりでは、本題材のはじめに「リボンのおどり」で、曲全体のまとまりを考え、パートの重ね方や演奏の仕方を工夫して響きを味わいながら音楽をつくっていく。そこから本時の教材であるリズムアンサンブルをつくる活動へとつながっていく。そのため、既習学習した音楽を形づくっている要素を工夫しながら音楽づくりをすることが重要である。

また、6年生では「ラバース コンチェルト」で自分たちが授業の中で演奏する楽器の音色にも着目していくことにつながる。本題材を充実させることで中学1年生の、自分たちでつくったリズムと友達がつくったリズムと重ねる面白さを感じ取らせたり、強弱などを工夫することにより、曲想が変化する面白さを感じ取らせたりする学習の素地を養うことができると考える。

###### ○モデルプランとの関わりについて

児童は3年生の学習で、反復と変化を使ってまとまりのあるリズムをつくる活動に取り組み、音楽が反復することの心地よさや変化することの面白さなど、その効果やよさを感じ取っている。5年生の本題材では、打楽器の音色の組合せやリズムの重ね方を工夫し、3年生で学習した反復や変化、さらに、呼びかけと答えなどの音楽の仕組みを用いて、音楽の縦と横の関係を意識しながらリズムアンサンブルをつくる。友達との協働的な活動を通して、リズムや音色の重ね方やつなげ方の特徴が生み出すよさや面白さに気付かせていく。さらに、中学1年生では、自分でつくったリズムを友達がつくったリズムと重ねる面白さを感じ取らせたり、強弱などを工夫することにより、曲想が変化する面白さを感じ取らせたりしていく。

##### 【視点2】

###### ②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

本研究の主となる思いや意図をどのようにしてもたせていくかについて考えたとき、まず個々の思いをもつことがはじめの心理であると考え。また、なにかを変えてみたいと考えたときや試したことがうまくいったときに「もっとこうしてみたい。」という思いをもつと考えた。そのため本時で扱うリズムアンサンブルの導入として、何も工夫をしない演奏を聴かせることで子どもたち自身が「こんなことできないかな。」という思いを一人一人がもち、工夫しながら打楽器のアンサンブルを構成する活動につなげていきたい。

本時ではグループでリズムアンサンブルをつくりあげていくことを主な活動として計画している。個人が思いをもてるように前時に一人でワークシートを活用しながら個々で打楽器アンサンブルの構成を考える活動を行い、本時ではグループで協力して思いや意図をすり合わせていくことで、個別最適な学びから協働的な学びにつなげていけると考える。また、個人で思いをもつことで意見交換が活発になり、話し合いながら活動できると考える。個人の意見をもった後にグループでの活動を行うことで、自分の考えたアンサンブルが音楽になる経験を通して、今後の音楽づくりの意欲につながっていくと考える。

また、本題材の第一次に扱う「リボンのおどり」では、アンサンブルの構成を考える活動を行っている。ただ単に、ランダムに構成するのではなく、音楽の仕組みを意識して構成するように指導することで、本時の打楽器アンサンブルを構成する際の素地を養っていきたい。

### 【視点3】 評価の在り方

本題材は、ギガタブを活用しながら学習を進めていく。意見の交換や共有がスムーズに進み、多くの意見や思いを知ることができる。また、学習後に見ながら評価することで正確かつあまり発言をしない児童の思いや感想も見ることができるため授業中の見取りと合わせて評価していきたい。

#### ○ギガタブでの共有と評価（思考・判断・表現）

本時で用いるワークシートでは、個々の考えを書けるようなスペースを設けている。どのように構成していきたいのかを書き込むようにし、そこからどのような意図をもって構成を工夫しているのかを見取るようにしていきたい。学習中の子供たちの様子とワークシートの2つの側面から評価することで思いや意図と演奏がつながっているのかを評価することができる。また、ギガタブを活用し、自分のワークシートをオクリンクで提出することで、お互いのワークシートを共有できる。友達の工夫と比較することで自らの振り返りにつなげたり、個々の考えのよさを生かしたグループのアンサンブルをつくったりすることが期待できる。

### 3 題材の目標

- 音色、リズム、旋律や音の重なりなどと曲想との関わりを理解して、各声部の楽器の音色や楽器の音の重なり合う響きに気を付けて音を合わせて演奏する技能や、打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして音楽をつくる技能を身に付ける。（知識及び技能）
- 楽器の音の組み合わせ方や重ね方を工夫した演奏の仕方や、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。（思考力、判断力、表現力等）
- 友達と協働して音を合わせて表現したり、様々な楽器の響きに気を付けてオーケストラの音楽を聴いたりする学習の楽しさを味わって主体的に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 **知** **技** **知技**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① <b>知技</b> 曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりを理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーや木琴などの楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>② <b>知技</b> 楽器の音色や各声部の重なりによる響きと演奏の仕方との関わりを理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>③ <b>知</b> 曲想及びその変化と、楽器の音色や響き、旋律との関わりについて理解している。</p> <p>④ <b>知技</b> リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて音楽をつくる技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。</p>	<p>① 楽器の音色、各声部の重なりや響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>② オーケストラの様々な楽器の音色、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>③ 打楽器の音色、反復、呼びかけと答え、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>① 楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 楽器の音色や旋律の交代による響きの変化に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>③ 打楽器の音色の組合せやリズムの重ね方に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 題材の指導計画及び評価計画（8時間扱い）（本時7/8）

次	時配	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童（生徒）の姿 【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを楽しみながら演奏する。						
第一次	第1時	○各パートの旋律の特徴をつかんで「リボンのおどり」を演奏する。 ・リコーダー1、2のパートを演奏する。 ・アクセントについて知る。 ・木琴、鉄琴のパートを、特徴をつかんで演奏する。 ・へ音記号について知る。 ☆〔音色、リズム、旋律、音の重なり、拍〕 ○アンサンブルの構成をワークシートに個人で記入する。	○シンコペーションのリズムによって演奏するようにリズムを強調して伴奏する。  ○主な旋律の役割を伝え、旋律の重なりを感じながら演奏するように伝える。 ・飾りのパートの役割を聞き、響きに気を付けた演奏の仕方を工夫している。  ○音楽的な要素について振り返り、それを生かして構成するとよいことを伝える。  【視点2】②	①知技 （演奏聴取）		
	第2時	○前時で考えた個人の構成をもとにグループで一枚のワークシートに構成を考えていく。 ・曲全体のまとまりを考えながら、前自グループで演奏の仕方を工夫する。 ☆〔音色、音の重なり、反復、音楽の縦と横との関係〕	○重ね方の違いによる響きの変化に気付いて、いろいろな組み合わせを試すように声をかける。 ○前時で考えた個人の考えを書いたワークシートをもとにお互いに意見を出し合い、グループで一つの構成を考えるように声をかける。 ○構成する際に、個人で一番取り組みたい工夫を紹介し合い、それをふまえてグループでの構成を考えるように助言する。  【視点2】② ・パートの重ね方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。		①（デジタルコンテンツ、発言）	
	第3時	○重なり合う響きの変化の面白さを生かして、表現の工夫をする。 ・グループで演奏する練習する。 ・グループごとにどんな音楽にしたいかを考えながらいろいろな重ね方を試す。	○パートの重ね方の工夫をし、いろいろな組み合わせを試すように促す。 ○演奏しながら音を確認し、構成を変更してもよいことを伝える。 ○途中で全体の構成の中に個々の楽器の鳴らし方や音量の変化の工夫に取り組んでいる児童を称賛し、全体に共有することで自分の演奏する音の工夫について考えられるように声をかける。 ・自分の考えを伝えながら、協働的に構成を考える活動に意欲的に取り組んでいる。			①（発言内容・演奏聴取）

	第4時	<p>○グループで工夫した「リボンのおどり」を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫したことを振り返り、音量のバランスに気を付けて、拍にのって演奏する。</li> <li>・グループごとに発表して互いに聞き合い、よいところを伝える。</li> </ul> <p>☆〔音色、音の重なり、拍〕</p>	<p>○はじめに練習をする際には、音量のバランスを客観的に確かめられるように、聴き役を交代しながら演奏するように伝える。</p> <p>○音色や音の重なり、パートの重ね方、音量のバランスなどに着目して聴くことができるように、全体で聴くポイントを確認する。 【視点1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各声部の重なりによる響きと演奏の仕方との関わりを理解し、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。</li> </ul> <p>○効果のある表現の工夫をギガタブを使って共有しあい、子どもたちが工夫を用いて構成できるように助言する。</p>	② (発言内容・演奏聴取)	↓	↓
◎オーケストラのひびきに親しむ。						
第二次	第5時	<p>○オーケストラの響きを味わいながら「祝典序曲」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な旋律を演奏する楽器が変わっていくところを聴き取り、それぞれの響きや音色について話し合う。</li> <li>・もう一つの主な旋律と主な旋律が交代して登場するところや最後の金管楽器によるファンファーレを聴き取る。</li> <li>・曲全体を聴き、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを確かめる。</li> </ul> <p>☆〔音色、旋律〕</p>	<p>○教科書の楽譜を手掛かりに、主な旋律を演奏する楽器が変わるところで挙手することで、音色の変化を確認させる。</p> <p>○二つの旋律の交代を右手と左手の挙手で、ファンファーレを両手あげるなどし、曲の構成をつかむように声をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の交代に気を付けてオーケストラの演奏を聴き、曲想やその変化や楽器の音色の響きなどについてギガタブにまとめている。</li> </ul> <p>【視点3】</p>	③ (ギガタブ・発言内容)	② (ギガタブ・発言内容)	② (行動観察・発言内容)
◎打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして、リズムアンサンブルをつくる。						
第三次	第6時	<p>○楽器による響きの変化を味わいながら曲全体を聴き、太鼓との音のよさや重なり合いの変化を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アフリカンシンフォニー」を聴き、打楽器による音色の響きを聴き比べる。</li> <li>・打楽器アンサンブルのグループに分かれ、自分の演奏する楽器とリズムを決める。</li> </ul> <p>☆〔音色、旋律〕</p> <p>○反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係を振り返り、音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや意図をもとに構成をワークシートにまとめる。</li> </ul>	<p>○リズムや楽器が変わっていくことの楽しさをギガタブにまとめ共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏を聴くなかで、太鼓のおもしろさやリズムのおもしろさについて気付いている児童を紹介し、聴くポイントを共有する。</li> </ul> <p>○実際に音を出しながら、楽器のバランスや音の重なりを話し合いながら決めるように声をかける。</p> <p>○自分たちも打楽器アンサンブルをつくることを知らせ、音楽の仕組みについて確認する。</p> <p>【視点2】 ②</p>	↓	↓	③ (行動観察・発言内容)

<p>第7時 本時</p>	<p>○構成を工夫して、リズムアンサンブルをつくる。 ・グループの友達と相談しながら自分たちのリズムアンサンブルをどうしていきたいか話し合う。 ☆〔音色、リズム、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係〕</p>	<p>○反復や呼びかけとこたえなどの音楽の仕組みを生かした、構成にするように助言する。 【視点2】② ○ワークシートを活用し、グループで構成の意見を出し合いながら話し合うと、全体を把握しやすいことを伝える。 ○強弱も工夫してよいことを伝える。 ・グループで構成を工夫してアンサンブルをつくっている。 【視点1】</p>	<p>③ (ワークシート・発言内容)</p>	
<p>第8時</p>	<p>○自分たちのリズムアンサンブルを完成させ、発表し合う。 ・前時で考えたグループのリズムアンサンブルを思い出し、練習をする。 ・気付いたことや感想などを発表し合う。 ☆〔音色、リズム、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係〕</p>	<p>○終わり方は自分たちの考えたリズムを使ってもよいことを知らせる。 ○友達の演奏を聴いて気付いたいろいろな工夫を自分たちの演奏に生かすように声をかける。 【視点2】② ○呼びかけやこたえなど、音楽の仕組みがどのように生かされているのかなど、発表を聴くときのポイントを示す。 ・リズムのつなげ方や重ね方の特徴について考え、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて音楽をつくっている。</p>	<p>④ [知技] (発言内容・演奏聴取)</p>	

※矢印 ↓ は、継続的に観察することを示し、□印は全員の学習状況を記録に残す場面を示している。  
※「4 評価規準」との整合性を図ること。

6 本時の指導（7／8）

（1）本時の目標

打楽器の音色やリズム、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、思いや意図をもってリズムアンサンブルを構成する。

（2）本時の展開

<p>学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕</p>	<p>○教師の働きかけ・目指す児童（生徒）の姿 ◇評価規準（評価方法） 【視点】</p>
<p>1 前時を振り返り、自分のパートを演奏する。</p> <p>2 自分が前時でつくった構成を振り返る。</p> <p>3 本時の目標を知る。</p>	<p>○それぞれのリズムごとに順番に演奏させ、同じリズムを演奏している友達と確認しながら演奏できるようにする。</p> <p>○どんな工夫をしたのかについて自分の考えを振り返えさせ、これから考えるグループの構成の手助けとなるようにする。</p>
<p><b>グループでリズムアンサンブルをつくろう。</b></p>	
<p>4 グループでアンサンブルの構成の工夫を行う。</p> <p>☆〔音色、リズム、音の重なり、反復、呼びかけと答え、変化、音楽の縦と横との関係〕</p>	<p>○「リボンのおどり」で行った重ね方の工夫を想起させ、リズムアンサンブルでも同様に工夫できないか声をかける。</p> <p>○拡大したワークシートを一つ用意し、グループのみんなが意見を出しながら書き込めるようにする。</p> <p>○実際に演奏しながらつくったり、完成したら試しに演奏したりして、もっとよいアンサンブルがないか試行錯誤しながら構成するように声をかける。</p> <p>・グループで構成を工夫してアンサンブルをつくっている。</p> <p>◇打楽器の音色、反復、呼びかけとこたえ、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。 (思考・判断・表現) 〈ワークシート、発言内容〉</p>
<p>5 いくつかのグループの演奏を聴き、次時につなげる。</p>	<p>○ワークシートをギガタブで提示し、演奏グループの工夫を考えながら聴くように伝える。</p> <p>○次の練習の際に他のグループの工夫を参考にし変更してもよいことを伝える。</p> <p>○次時では、練習をしてからグループごとに発表することを伝える。</p>